

バラツクの六畳の間より (隨筆)

可愛い男の大杉栄

——悪口云はれても悪い気はしない——

私が最初大杉君と会つたのは、大正九年の秋であつたが、改造社主催の岡川白村氏と私の歓迎会が銀座のパウリスタの二階で開かれた時であつた。

大杉君はその日の朝、監獄から出たばかりで、カラーもネクタイも無く、白いハンカチを頸に巻いてカラーの代用にしてゐた。あの可愛い吃りの口付で、「入獄者の手引を教へてやらねばならぬ。俺はそれを書く」と云つて居たが、その後、望月桂氏と二人でそれを實現した。

恰度そこに堺枯川君も、その他社会運動界の猛者連が沢山集まつてゐたので、監獄生活に色々花を咲かせた。大杉君は、出獄後女と食物を護まねばならぬと云ひ、堺君は獄内で色情があまり猛烈に起らないと云ふことを話してゐた。

大杉君は第一印象から「可愛い」人だと思つた。その顔には淋しい濁つた輪廓が無いでもなかつたが、少しも憎らしいところは発見しなかつた。快活で、明けつ放しで、(自分の性慾生活までも少しも隠し立てしない)賢い人だと思つた。

その翌晩私は神田の青年会館で演説することになつてゐた。話が半ば頃になつて頻りに弥立ちになつた。すると、その男はつか／＼と演壇に近く進み出て来た。よく見れば大杉君だ！ 昨夜は仲よく話した大杉君が、今日私の演説会を弥次りに来て居るのである。それで、私は大杉君をさし招いて、「僕の話が済むまで待つてくれ給へ、話は後でしやうや」と云ふと、「いやだ此処で、話したい」と云ふ。「それでは、話し給へ。僕の演壇を君に明け渡すから」と云ふやうな意味のことを述べて、私は引き下つた。

聴衆は吃驚してゐる。大杉君は、なんでも数年来、その時のやうな聴衆に話をするのは始めてだつたとかで、十数分も話してゐたやうだつた。そして云ひたいことを云ふた後に、監監の警官が「辯士中止」を命じて、大杉君は、辯士室に這入つて来た。そして大杉君は、フランスの議会の例を引いて、「演説も会話的でなくてははいかぬ。一人が一時間も、二時間も一本調子で喋るのは専制的だ。聴衆と講演者が合議的に話すのが眞のデモクラチックな通り方だ」と教へてくれた。私はそれに感心した。たゞ私は「それは小集會に適するが、大衆の場合には混乱に陥る恐れがある」と云つた。大杉君は風習までにアナキズムを注入することに努力してゐるのだとはその時に私の感付いたことであつた。それで、大杉君の一派が裁判官の前で起立しないこと位はあたりまへだと知つたことであつた。

その後大杉君は「労働運動」紙上で、二、三回も、私の評論を書いた。その評論が、「正義を求むる心」の中に這入つてゐる。大杉君は僕を「カガワ」と呼ばないで、「バ」の字を附けて「バカガワ」

といったら呼びをしたり(この種の大杉のいたづらは望月君との合作に最もよく出てゐる)私の無抵抗主義を罵り、私に「偉大なる馬鹿」の形容詞を蒙らせた。

然し大杉の馬鹿呼ばはりには、私には少しも悪感を催させなかつた。なぜなら、大杉は人を馬鹿と云ふ代りに、人の善いところも善く知つて居るからであつた。僕を襦袢ひらひらに云つて置いて、ひよつくり神戸の私の宅へ大杉君は尋ねて来る。大杉君は一度一人で、一度は魔子ちゃんをつれて私の宅へ来てくれた。

その時の対話などを今考へ出してみても大杉君が、人を害するやうな人物で無いことを私は考へる。

大杉君と僕が話すことは大抵いつも生物学のことであつた。大杉君はダーウキンの『種の起原』の譯訳者であり、フアブルの『昆虫記』の譯訳者である。フアブルは私の家から英訳を持つて帰つて英仏対照で譯訳したらしい。大杉君は、日本の生物学の知識の發達に就て色々話してゐた。ドフリースの『趨異説』を譯訳したといふつてゐた。

その時だつた。「大杉君、君の學説は何と定義すれば善いのだね？」と私の質問したことのあつたのは。

それに対する大杉君の答は簡單であつた。曰く、「個人主義的サンヂカリスチック・アナキズム」

大杉君が「個人主義」と「サンヂカリズム」とを並行せしめるとこゝに彼の面目がある。その後私は大杉君と屢々會ふ機會を持つてゐた。然し、うちで話をした時のやうに悠然話の出来なかつたことを残念に思ふ。

彼が、子供思ひであつたことは、魔子ちゃんを彼の旅行に連れ廻つてゐたことを見てもわかる。二度目に大杉君が魔子ちゃんを宅につれて来てくれた時に、魔子ちゃんは、私と妻の前で『革命歌』を歌つてくれた。

大杉君の日本脱出記の中には、魔子ちゃんのことを思ひ出して書いてあるが、私は彼の愛兒本能を思つて涙の眼に沁むのを覚えた。

主義としては、大杉君はクロボトキンの直弟子であつたらしい、別に大杉特有の學説と云ふものは無かつたやうだ。經濟學説にしても新しい説は出して居らぬ。そのあたりはバクニンによく似てゐる。

然し彼は常に理想主義的で、反マルクスであつたことは疑ふことが出来ない。彼が理想主義的であつたところは彼がレニンに楯つく勇氣を持つてゐたことを見てもわかる。そこいらは私と大杉君との近似値のあるところかも知れない。たゞ大杉君と私の大きな差は、私が暴力の無能を徹底的に主張するのに對して、大杉君は暴力の効用をあまりに強く信じ過ぎてゐた点である。否、或は賢い大杉君のことだから、暴力の効用を信じてゐなかつたかも知れないが、その表象の意味をソレル的に信じてゐたかも知れぬ。

然しソレルの暴力の意味は實にスコラ学者のみの理解し得るものであつて、私は絶対にソレルのやうな暴力表象説を信じない。

私はバクニンの失敗の跡に鑑みて、恐怖主義に向つて警戒してゐた。然し数年前、日本の一部の社会主義者間にテロリズムが流行したことがある。私はそれを嗤つた。今もそれを嗤つてゐる。暴力主義は社会主義運動には悪い歴史を持つてゐる。そして、大杉君が、

